

2025年度の実証実験の背景・結果および今回の取り組みについて

審査26-569

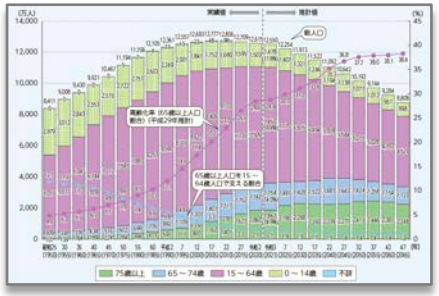
1. 取り組みの背景 （2025度実証実験時の資料より）

- 生産労働人口の減少やIT人材の不足を背景に、**業界・業種を横断したDX推進・活用の体制**が必要
- 電柱点検においては、同一エリアに電力柱・電信柱が設置されている現状を踏まえ、**横断的に共同点検が可能となるサステナブルな事業運営体制の構築**が必要

社会を取り巻く課題

➢ 生産労働人口の減少

・1995年をピークに減少し、最新技術の活用等による**DX推進による生産力の確保**が必要



出典：内閣府（2022）「令和4年版高齢社会白書」
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/pdf/1s1s_01.pdf

➢ IT人材の不足

・DX推進が必要な状況において、2030年にかけて**IT人材が不足**すると予想（特に地方部の人材不足が顕著）



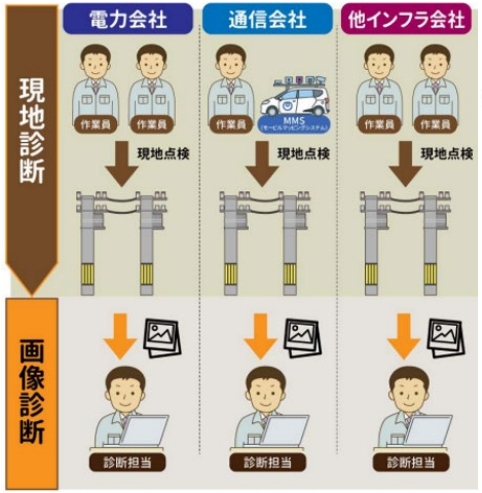
出典：経済産業省（2019）「IT人材需給に関する調査」
https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf

電柱点検における課題

➢ **同一エリアに電力柱・電信柱が混在**し設置されている状況のおいて、各社が個々に点検を実施している。

➢ 限られた人員で高い点検品質を保つために、**サステナブルな事業運営体制を構築**することが必要である。

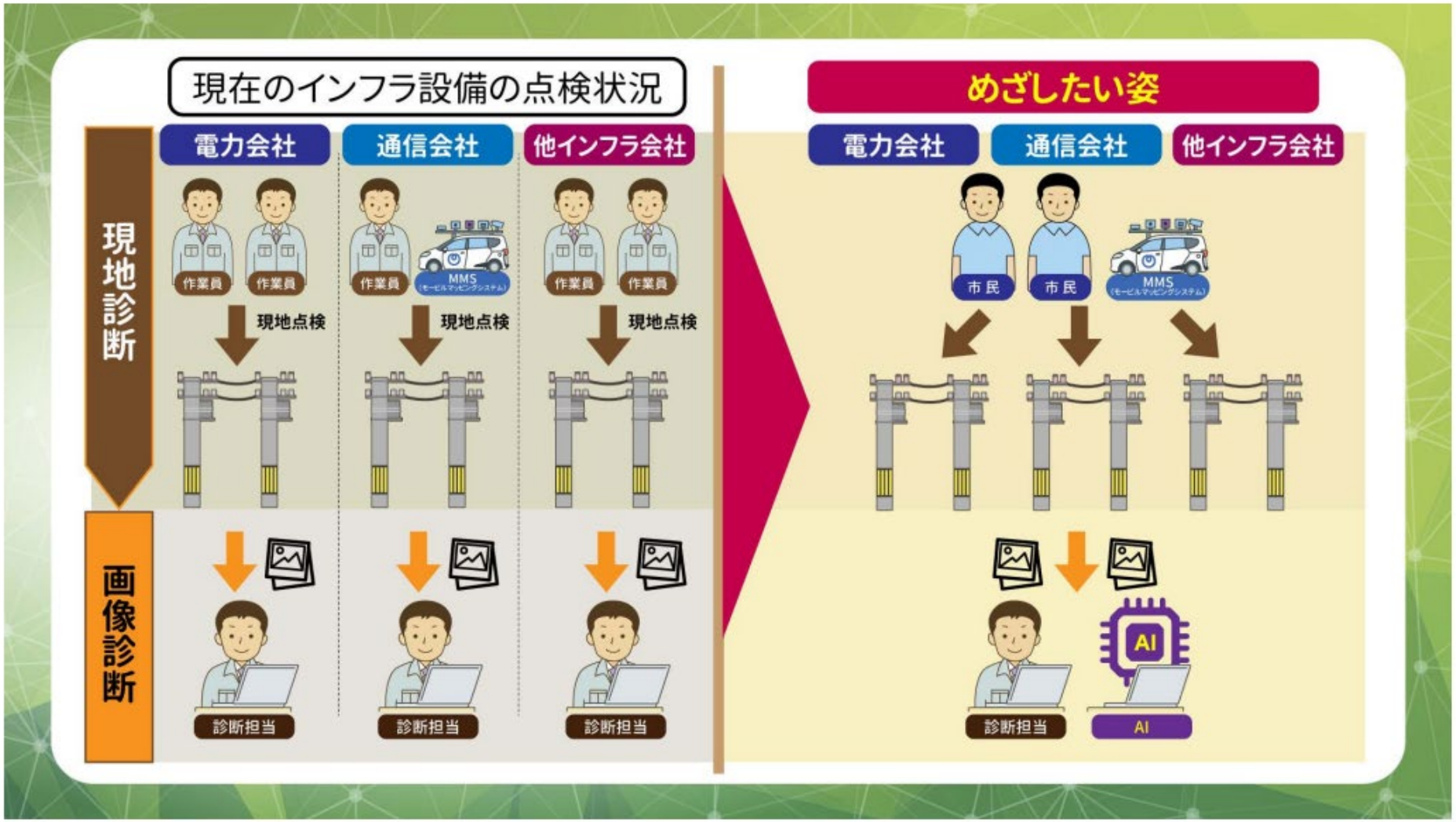
インフラ設備の点検状況





2. めざす姿 （2025度実証実験時の資料より）

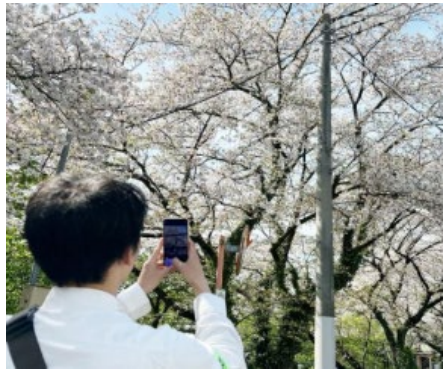
- 沖縄電力様と連携し、**通信会社と電力会社**が同じ仕組みのもとで点検を実施する**「共同点検モデル」の実証実験（国内初の取り組み）**を実施。



3.前回の取り組み内容と結果

- 市民による画像収集と企業横断のリモート診断は一定の可能性を確認することが出来、今後も継続した取り組みとして推進中。

Phase①
市民による電柱画像の収集



「ピクトレ」を活用し、**電力会社・通信会社**の設備画像を**所有会社に関わらず一括で収集**できるか検証。

市民による画像収集

撮影率90%以上を達成

- 総数4.5万本のうち4.3万本を撮影
- 一部離島では撮影率100%を達成

Phase②
一括リモート診断の実施



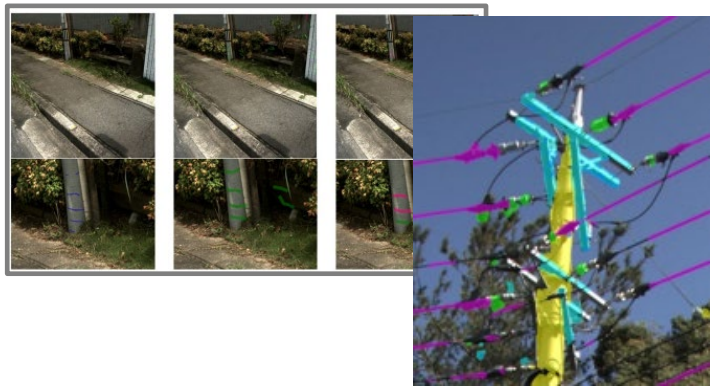
Phase①で撮影した画像の一部を、**NTT西日本の保有するリモート診断技術を活用**し、**電力会社の点検が可能か**検証。

一括リモート診断

一致率92.2%

- サンプル2000基を対象に検証
- 過検知5.3%、未検知0.2%

Phase③
AI診断の活用による高度化



NTT西日本グループの保有する**AI診断技術を活用**し、構造物(電柱)の劣化**診断の効率化・高度化**に取り組む。

AI診断

トランス有無判別97%

- 1,000基を対象に設備等をAI判定
- 設備判定への活用可能性を確認

4. 今回の取り組み

□ 昨年度に引き続き、「ピクトレ」を活用し、県民や観光客のみなさまが**ゲーム感覚で電柱を撮影し、撮影された写真をインフラ会社が設備点検に活用する、楽しさと社会的意義を兼ね備えた取り組み**を実施します。今年度は、**対象エリアを沖縄県全域に拡大**し、より多くのみなさまに参加いただける取り組みとして展開します。

期間	**2026年 12月12日（土）7:00 ～ 2027年 3月14日（日）18:30**
撮影可能時間	**7:00～18:30** ※この時間帯以外はアプリを開くことはできますが、撮影を行うことはできません。 ※暗くて設備が確認できない写真は報酬コインが付与されません。
対象	**どなたでも参加可能（参加費無料）**
対象エリア	**離島含む沖縄県全域（電柱約24万本）**
報酬	**電柱1本あたり30～50円相当の報酬コイン ※初回撮影時**
参加方法	**App Store、Google Playから「ピクトレ」アプリをインストール、会員登録後、メイン画面左上から「沖縄シーズン26-27」を選択して参加**

